

平成29年3月1日(水)



つつじが丘小学校
学校だより

つつじ

昭島市立つつじが丘小学校長 上田 祥市

信じて待つ

校長 上田 祥市

穏やかな日差しに誘われて家の近くをのんびり散歩していると、路地裏の白梅から優しい梅の香りが届けられ、春が身体中に染み渡っていきます。つつじが丘小学校の初年度、桜の春から梅の春へ。もうすぐ一年が終わります。

2月3日4日に行われたアートフェスティバルでは、多くの方々にご参観いただきありがとうございました。また、100人を超える保護者、ご来賓の皆様にご感想をいただき、大変嬉しく思いました。

- ・子供たちがみんな笑顔で、自分たちで創ったんだという満足感が伝わりました。
- ・入っただけでわくわく感がいっぱい、自分の子供のときにこんな行事があったらなど、羨ましく思いました。
- ・子供たち一人一人が、つつじが丘小の一員であると、胸張って表現できる場があることを嬉しく思います。

従来通りの展覧会にはない、もっと子供たちが主体的に取り組む行事にするためのチャレンジが、このアートフェスティバルでしたから、観に来られた方々が皆さん、子供たちの生き生きとした姿に、創り上げた作品に感動したと思われたことに、このチャレンジの成功を感じ、ほっとしました。

私たちにとっても、このチャレンジは大きな学びがありました。先生たちは、口を出したいのをぐっとこらえて、子供たちの議論を見守り、自分たちからアイデアが出てくるのをじっと待ちました。

決められた時間内にアイデアは出るのか、本当に完成までたどり着けるのか…様々な不安がよぎります。当日の午前中では、ハプニングで頭を抱えるクラスもありました。どうすればいい…みんなで考え、工夫を凝らし、ピンチを乗り越えていきます。協力しない子は一人もいません。いつもはおとなしい子も、積極的に活動します。

「信じて待つ」これが、私たちが子供たちから教えてもらったことです。もちろん教育活動の全てにできることではありません。でも、信じて待たずに、指示ばかりして十分に考えさせる時間を与えていないのではないかと、自問自答することが増えました。ご家庭でもそうではないでしょうか。「信じて待つ」ことの大切さの中に、新学習指導要領の「主体的・対話的深い学び」のヒントがあるように思います。

つつじが丘小学校の初年度は、残すところ17日となりました。3月3日には「6年生を送る会」が開かれ、学校は一気に卒業・進学モードに入ります。6年生との会食会で、「友だちがいっぱいできて、嬉しかったです。」「最初の卒業生で誇りに思います。」と話してくれる子供たちに、込みあがる喜びと感謝の気持ちが溢れます。

3月24日金曜日、つつじが丘小学校の希望の扉を力強く開け、素晴らしいリーダーシップを発揮し、全校の子供たちの憧れとなった6年生が、第1回卒業生として本校を旅立ちます。